

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名： 地域総合研究センター

部局長名： 三村 聡

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域 ①令和4年度は、昨年度の経験に基づき、新4学期制とコロナ災禍対策をさらに強化して、主担当となった教育推進機構の意向に沿いながら、当センター教員が担当する実践型社会連携教育プログラム、とりわけ教養科目における授業を中心にSDGs活動との関係性を重要視した教育活動を展開したい。また、海外からの学生のサポートについても、これまでの実績を活かし、SDGs推進を視座においた社会連携教育を当センターのレベルで推進する。 ②学生の地域活動を見守りながら、他大学や高校との連携を視野に入れつつ、情報交換活動を含む地方創生に結びつくSDGs推進を実施する。 ③学生が地域社会で学ぶことにより、実践力の向上と生きる力を身につけることを目指し新型コロナ災禍の影響をうけながらもオンラインを有効活用した新たなスタイルのインターンシップ型の教育プログラムの開発に取り組む。	①令和4年度は、当センター教員が担当する実践型社会連携教育プログラム、とりわけ教養科目における授業を中心にSDGs活動との関係性を重要視した教育活動を目標通り展開することができた。また、海外からの学生や研究者のサポートについても、これまでの実績を活かし、岩淵泰副センター長が核となり、SDGs推進を視座においた社会連携教育を当センターのレベルで推進することができた。 ②学生の地域活動を見守りながら、他大学(ノートルダム清心女子大学、山陽学園大学など)との連携を実践、さらに高校(岡山県立古城池高校、井原高校、新見高校、玉島商業高校など)との高大連携を視野に入れつつ、情報交換活動を含む地方創生に結びつくSDGs推進を実施することができた。 ③学生が地域社会で学ぶことにより、実践力の向上と生きる力を身につけることを目指し新型コロナ災禍の影響をうけながらも、岡山県の伊原木知事が推奨・実践する地域課題の解決に熱心に取り組む「ももたろう未来塾」への参加呼びかけをはじめ、オンラインを有効活用した新たなスタイルのインターンシップ型の教育プログラムの開発に取り組む流れが醸成できた。
②研究領域 ①今年度は地域総合研究センター創設10周年の総括を行ない、11年目の新たな第一歩を迎えるため、これまでの学都研究の成果を振り返りながら、ベンチマークにしてきた米欧大学の先行活動の最新事情をフォローしつつ「実りの学都」構想の仕上げの年にふさわしい成果報告を行う。 ②これまで継続してきた三都市シンポジウムを通して、旧制四高、五高、六高連携の総括を行い、本学が推進するSDGs大学経営の視座から研究成果を取りまとめたい。 ③地域連携や産学共創をテーマに岡山大学文明動態学研究所との関係性を深めることに研究の力点を置きつつ、引き続き地域創生研究を継続する。 ④まちづくりにおける若者の参画についての国内比較研究を発展させる。	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等 ①地域総合研究センター創設10周年の総括を行ない、11年目の新たな第一歩を迎えるため、これまでの学都研究の成果を振り返りながら、ベンチマークにしてきた米欧大学の先行活動の最新事情をフォロー、とりわけフランス国ストラスブール市とストラスブール大学を訪問、「実りの学都」構想の仕上げの年にふさわしい研究と岩淵泰副センター長が同大学大学院にて「実りの学都」構想の成果報告を行った。 ②これまで継続してきた三都市シンポジウムの企画と運営を岩淵泰副センター長が担当した。開催校は熊本大学が担当、今回の三都市シンポジウムでは旧制四高、五高、六高の新たな連携の方向性が議論され、若手研究者がバトンを受け取り新たなステージに歩み出す決議を行い、本学が推進するSDGs大学経営の視座から研究成果を取りまとめた。令和5年度は岡山大学での開催が決まった。 ③地域連携や産学共創をテーマとして、岩淵泰副センター長が岡山大学文明動態学研究所との関係性を深める研究をシリーズ化して精力的にこなし、引き続き地域創生研究を継続する。 ④金沢大学、熊本大学と共にまちづくりにおける若者の参画について国内比較研究を発展させる。
③社会貢献(診療を含む)領域 ※社会貢献(診療を含む)領域に関する目標についてご記入ください。 ①自治体、経済界との連携による地域課題の解決に向けた活動展開を予定している。一例では、SDGsで第7次倉敷市総合計画や、岡山商工会議所の提言書(未来ビジョン)に岡山大学の取り組みが反映されたことを受け、今年度は、関係部局、教員とも連携を図りつつ、更なる成果の見える化を目指す。 ②矢掛町、井原市、瀬戸内市など、新型コロナ災禍の影響(学生や地域へのリスクコントロール)を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置いた地域活動への参画を継続するなかで研究活動を継続する。 ③SDGs達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、西日本豪雨災害からの復興をテーマに工学部との連携による地区防災計画の策定支援(シンクタンク機能)の実施を今年度も引き続き継続していく。 ④岡山市中心市街地、新見市、矢掛町など、岡山県各地の地域振興に関するアドバイスを行う。	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等 ①自治体、経済界との連携による地域課題の解決に向けた活動展開を実践できた。一例では、SDGsで第7次倉敷市総合計画や、岡山商工会議所の提言書(未来ビジョン)に岡山大学の取り組みが反映されたことを受け、今年度は、関係部局、他大学の教員とも連携を図りつつ、新たな活動を展開した。 ②矢掛町、井原市、瀬戸内市など、新型コロナ災禍の影響(学生や地域へのリスクコントロール)を踏まえつつ、地域社会との連携による学生たちのSDGsを念頭に置いた地域活動への参画を継続するなかで研究活動や社会貢献型の教育活動を継続できた。 ③SDGs達成に向けた取組の中で、地域課題解決に向けて、西日本豪雨災害からの復興をテーマに工学部や防災活動に精通したNPO(まちづくり推進機構岡山)との連携により、高梁市地区防災計画の策定支援(シンクタンク機能)をはじめ倉敷市真備地区での活動を継続実施した。 ④岡山市中心市街地、倉敷市、赤磐市、備前市、新見市、矢掛町など、岡山県各地の地域振興に関するアドバイスを実施した。
⑤センター・機構等業務 ①地域総合研究センターの効率的な運営を行い、センター業務の円滑な推進を図る。 ②地域総合研究センター教員会議等を通じ、全学ビジョン等の共有を図り、センター業務を遂行する。 ③センター職員の評価方法の効率的かつ効果的な仕組みを構築する。	管理運営領域の目標の達成状況 ①地域総合研究センターの効率的な運営を行い、新型コロナ災禍を踏まえつつ、センター業務の円滑な推進を図ることに鋭意つとめた。 ②地域総合研究センター教員会議等を通じ、全学ビジョン等の共有を図り、とりわけSDGs大学経営を念頭に置いて、積極的に地域SDGsの推進によるセンター業務の遂行につとめた。 ③少人数ながらセンター職員の評価方法の効率的かつ効果的な仕組みを構築した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。